

8月号

昭和56年 8月 1日
編集／発行
岡崎市教育委員会

五月晴れの今日、待ちに待った
岡養との第一回交流運動会

五年生合同の球入れ競技

車椅子やバギー車も、マーチにのって
堂々の行進

「赤勝て」「白勝て」

全校総立ちで応援だ

競技前の不安は消えて

笑顔がもどる

球を渡した、あの手のぬくもりは

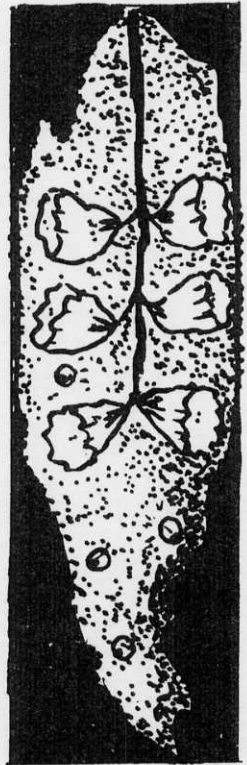
いつまでも忘れない

ここ本宿小の校庭に息吹いた

小さな芽がいつの日か花を咲かせる



(岡崎養護学校との交流教育一本宿小)



校長の仕事

永屋省三

— 教育随想 —

ある校長は、毎日だまつて便所の下駄をそろえ、廊下の紙くずをひろつた。先生たちは、校長さんにそんなことまでさせてはと、それにならない、学校は大へん整備されたという。そうならば、これは校長の立派な仕事の一つだといえるかも知れない。しかしこれは、誰にでも真似できることではない。ものずきな校長だと見すごされては効果はない。それは用務員さんの仕事であり、先生の指導の場をとりあげていることにもなる。

誰よりも早く登校し、広い校内をくまなく巡視することを日課とし、仕事とした校長がいた。各教室の掃除の状況から、校庭の雑草の一つまで知りつくしていた。しかし一言もいわず、注意もしなかった。先生たちは、校長は何でも知っていると、この意識が、それなりの反省となり、各自の仕事に気をつけるようになった。

かつて、教委から校長も授業をするようにと指示されたことがある。しかし校長が授業中の教室に立ち入りにくいような学校の状況では、校長が一人よい授業をしても、その効果は小さい。校長は暇さえあれば、先生の控室や準備室などを巡回し、先生ひとりひとりの悩みや要望をきき、校長の意図も雑談のうち知らせることを仕事とした。先生に応じて助言もし、必要な施設の充実をはかり、学校全体として、明るい活気のある教育環境をつくりあげていった。

学校は一つの交響楽団であり、校長はその指揮者であるといわれる。各先生のもつ楽器の音色を知り、それぞれに一番よい音色を出すように気を配る。時折、各楽器にソロのチャンスを与えたり、いくつかの楽器の美しいハーモニーを創り出したりする。しかし大切なことは、演

奏者あつての指揮者だということである。校長は、学校の教育目標や方針を立てる。校長は、レールの一本を敷き、その方向や長さをきめる。もう一本のレールの幅を決め、機関車をえらぶのは先生である。能力に応じて、十人十色の汽車を精一杯に走らせ、案配するのが校長の仕事である。

かつて、よく叱る校長に仕えたことがある。いくら叱られても、後に悪い感じが残らなかった。校長は派閥をつくらず、すべての先生に分けへだてなく接した。反対意見をいう者を大切にされた。一番よいことは、決して意地悪な人事をせず、常に温かい思いやりで先生をかばつたことである。この信頼感が何よりも職場の空気を明るくした。

よい校長は、常に自分の考えを明らかにし、先生を迷わせることがない。時に当たり、決断よく、それに伴う責任を回避しない。各先生の特長・能力を見出し、やる気をおこさせ、援助し、もり立て、その功を多く先生のものとする。先生は互いに足を引っ張ることなく、人の成功に心から賛辞を送り、各自の仕事に励む。仕事をする中で先生を鍛え、よい教師に育てていく。これは校長の楽しい仕事である。多くの先生が、生徒から尊敬され慕われて、多彩な生き生きとした教育活動が展開されている学校では、校長は、公害やスモッグが発生しない限り、気づかれることのない、空気のような存在であつてよいと思う。

(元高校校長)



海外こぼれ話

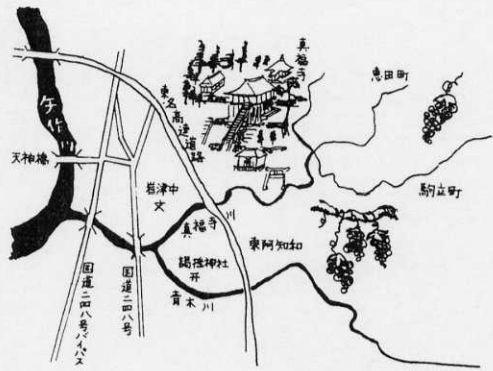
さすが本場の英語？

勝田 秀明

ヨーロッパを旅行してみても、片言の英語が一番通じなかつたのが、なんとイギリスであつた。

フランス、西ドイツ、オーストリア、イタリアの各国では、日本人の片言英語のよりよき理解者が多いのか、身ぶり手ぶりを交えて、何とか私の怪しい英語が通じたのである。その時の嬉しさはたいへんなもので、これで私も国際親善の役を果たすことができたのだと思うほどであつた。

ところがロンドンのパブにビターを飲みに行つて話の様子が変わつてしまつた。旅行仲間に悪いやつがいて、二組の夫婦づれで飲みに来ている英国人の席に私を呼んで、「何か話せ」と言うのである。少々酔いがまわつて気分よくしている私は二言三言「奥さんが若くて美しい」というようなことを片言の英語でほめた。しかし、その後のやりとりはなにひとつわからず、日本人特有のスマイルでうなず



— ふるさと山河 —

真福寺川

岩津中学校のわきを流れる細い川。これが真福寺川である。ここから三百メートル下ると青木川との合流点に出る。この付近一帯は岩津中には欠くことのできない自然とのふれ合いの場となっている。

真福寺川は、その源を駒立町に発し、西に流れ西阿知和町で青木川に合流する。全長八キロ足らずの小さな川である。付近には弥生時代の遺跡も多く、青木川との合流点付近の阿知和・蔵前・岩津一帯の台地や丘陵には数多くの古墳が見られることは、この地域の先進性を物語るものである。現在では、合流点付近の丘陵地はぶどう畑に、流域の低地は水田に変わり豊かな田園地帯となっている。

この合流点から二キロ程さかのぼると真福寺に着く。真福寺は三河地方きっての古刹で、寺伝によれば推古天皇二年（五九四年）の創建といわれる。その真偽

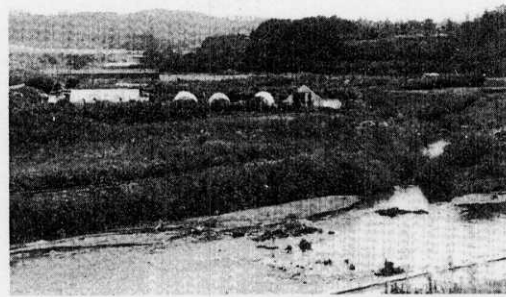
はともかく、この寺の創建は白鳳時代いさかのぼるのではないかと思われる。昨年十二月から本年一月にかけて行われた真福寺東谷遺跡の発掘調査により、中世の古墓と複合して、建物の基壇と思われる遺構が発見された。これは山頂平坦地の周囲に幅約二メートル、深さ五〇〜六〇センチの溝が検出でき、その溝に囲まれた区域（長辺十五メートル、短辺約十二メートルで唐尺の五〇尺と四〇尺に相当する）は建物の基壇と推定できるとのことである。付近からは白鳳時代の古瓦のほか瓦塔・須恵器・灰釉陶器・鉄釘などが出土しており、この地に白鳳時代の堂塔の一部が建立されていたことが明らかにされたわけである。平城宮木簡の「参河国多郡鴨田郷厚石里」の記事、延喜式内社唱播神社の存在とあわせ、この地が古代史を解き明かす鍵を握

っていることは疑いないことであろう。真福寺川は、ここから分かれ、一つは恵田・丹坂へ、もう一つは駒立方面へとさかのぼっていく。

さて駒立といえども述べるまでもないほど有名になったぶどうのふるさとである。ここで栽培されているぶどうは、デラウエア種が中心で、できたぶどうを市場に出荷せず、観光農園として開放していることに特色がある。阿知和町一帯で作られているぶどうが巨峰等の大粒な品種を市場出荷を目的に栽培されているのと好対照を示している。

この文を先生方が読まれるころは、このぶどうも真つ盛りであろう。ぶどう狩りにこの地を訪れることがあつたら、真福寺川にも目を向けていただきたいと思ふ。

（岩津中 岩瀬敏彦）



くだけであった。さすがに本場の英語は違う。中一の教科書程度では、十分でなかった。

（矢北小）

アントニオ君

石川 肇子

プロレスラーを連想する体格の彼は二十七才、無愛想だけれど親切な運転手。好天続きの暑いローマから、太陽道路を走りフィレンツェへ向かう朝でした。

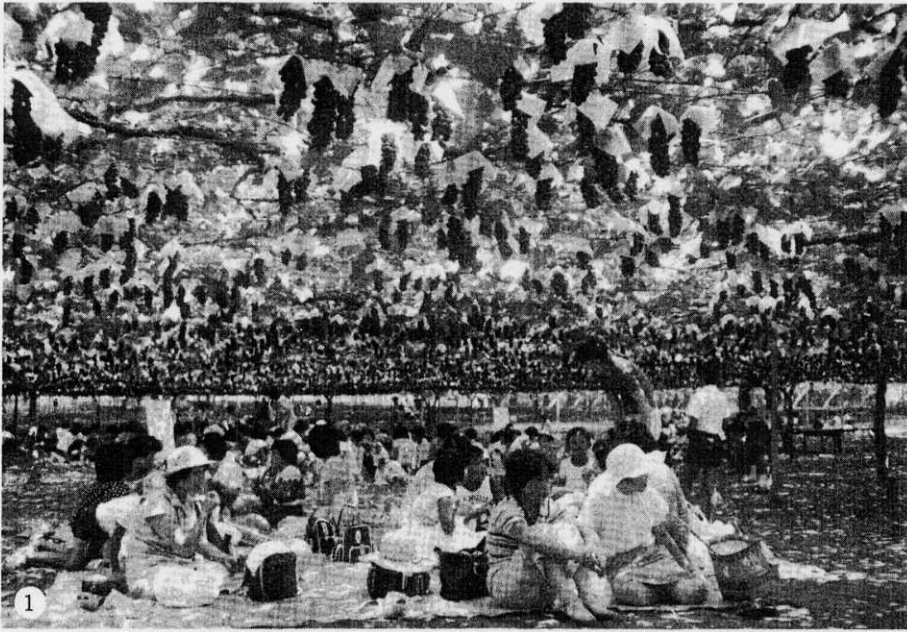
良い座席を取ろうと誰よりも早くバスに乗り込み、右側の席に決めたのですが、「いや待てよ。左側の方が涼しいかな。」アントニオに身ぶり手ぶりで陽の当たる場所をたずねると、彼はうなずきニコツと笑い大きな右手を横に出しました。

「グラーツイエ、それ！左側へ移動だ。さあ快適なバス旅行が出来るぞ。」それなのに、太陽は一向に私の窓ガラスから「さようなら」をしようともせずむしろ、時刻が立つにしたがって、「オソレミオ」です。

ガラス張りの車のため冷房も全くなりませんがなく、左半身はサウナ風呂同様で車外の風景どころではありません。

なのに、アントニオは鼻歌で運転しています。でも、彼の出した右手とは運転席に着いた時の左側のことです。「左窓より陽が当たるよ。」の意味だったのでした。彼と私は向かい合っていたからです。

（岡崎小）



1

岡崎再見

30

ぶどう狩り

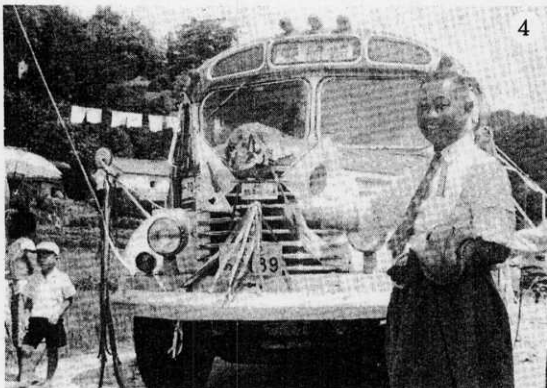
岡崎市の北部、真福寺から県道に沿ってさらに東に進むと、道は益々狭くなり山が道にせまる。人家がまばらになる頃、山あいやすそ野のここかしこにぶどう園が見える。これが駒立のぶどうである。

ここで、最初にぶどう栽培をはじめたという中根武夫さんのぶどう園を訪ねる。広い農園を案内してもらいながら年間を通しての作業内容や方法を教えていただく。栽培をはじめたのは、昭和二十四年。駒立は耕地面積も少なく、田んぼも小さく、労働生産性が低いので米にかわるものとはじめたのがきっかけだという。ぶどう狩りは昭和二十五年から。現在では、年間約六万人が訪れるという。この山村まで人が来るかどうか、共同でやれるか、採算はどうか、と苦労が多かったこと、これからはただぶどう狩りというだけでなく、レジャーセンターとして開発していきたいと過去を語り未来を展望してくれた。

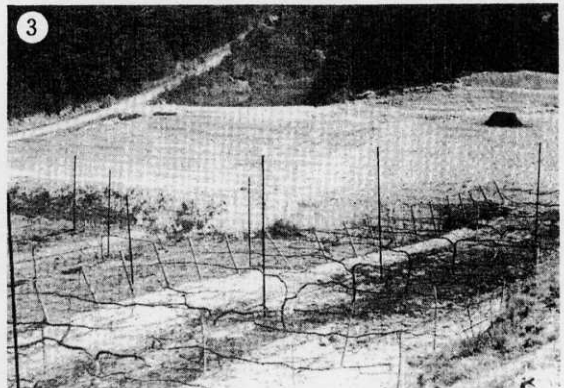
数々の歴史を秘めた、すっぱく、あまい駒立のぶどうを感じながら山をおりた。



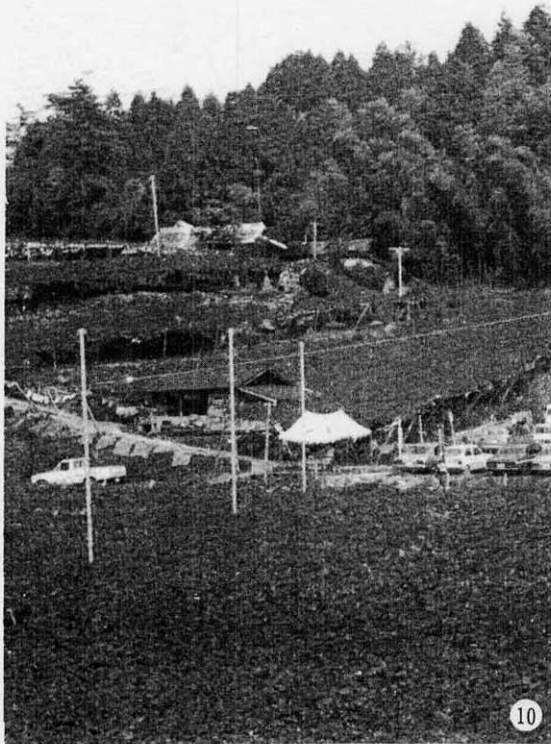
2



4



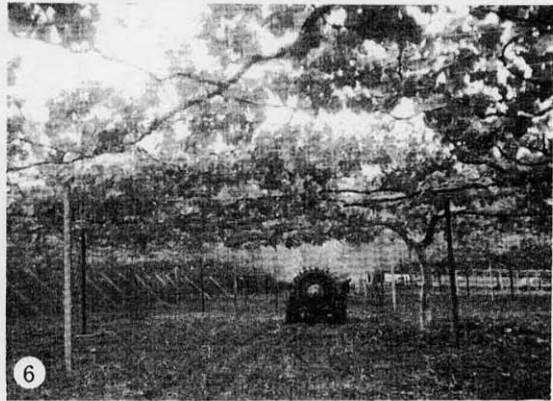
3



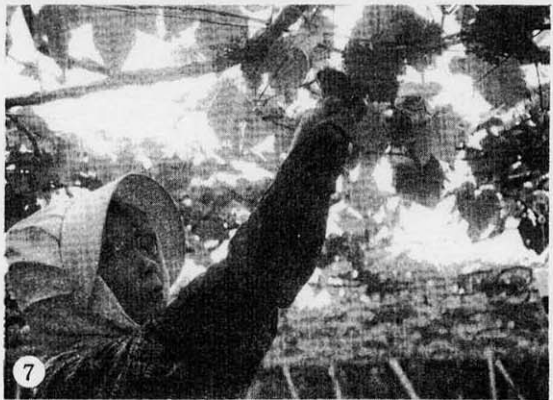
10



5



6



7

- ①ぶどう狩りを楽しむ家族連れ。緑陰で、しばし憩う。
- ②山を切り開き、ぶどう園を作る。
- ③できあがったぶどう園。
- ④駒立線、バス開通式。昭和35年。
- ⑤冬に行う、整枝剪定作業。
- ⑥噴霧式の機械（スピードスプレーヤー）による消毒作業。
- ⑦種なしぶどうにするためのジベレリン処理。二回行う。
- ⑧陣笠掛けといわれ、一房一房に白い防水紙をかぶせる。
- ⑨組合総会案内所の歓迎風景。遠くは浜松から観光バスを運んで。
- ⑩山の斜面を利用したぶどう園。支柱でつつている様子がよくわかる。

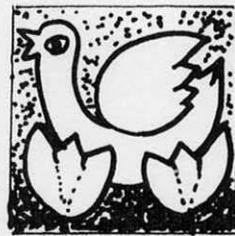


9



8

教育日々



五無主義くそくらえ

矢北中 後藤晶基

開校二か月ほど過ぎた給食時のことであった。Sは、私とロツカーとの間にできた狭い隙間に、体を無理やりねじこんできた。何か物でも取るのだろうかとか小さくなってやったが、そのうち背中にまきついてきた。この瞬間、はっと思い当たったことがあり、振り返るなり尻を二、三ばつたいてやった。Sは「おっ、いて」と、ひょうきんな声を出しながら、席に戻っていた。Sの顔を見ると、にこにこ満面に笑みをたたえている。一週間ほど前に、Sの生活記録に次のような文があった。

「もう学校も家もつまらん。家には帰りたいくない。部活だけが

オレの生きがいだ。……」

「今日、自転車に泥よけをつけたら、不良だと父母に叱られた。クソ・バカ・アホ・もう口もきかん。こんなことで不良になったら、オレもうヤクザだがや。腹立つなあ。」

Sの成績は上である。やや落ち着きのなさはあるが、学級では理論家と言われ人望もある。そのSが、こんなことを書くのはよほどのことと思ひ、母親や本人と幾度か話し合った。あとは学校でSの方から何時声をかけてくれるかと、心持ちにしていた矢先である。それが今日の仕種なのである。これで一安心やつとSの気持ちを通じ合つて気が楽になった。

一般に中二といえば、大人に



近いようであるが、まだまだ自分の心を律しきれない弱さを持つている。その上、中学校では担任といえど、生徒との触れ合いが少なく、心の中で理解し合うことはなかなか難しい面を持つている。しかし何とかしな

ければと始めたことの一つに、グループごとの会食がある。私がグループの生徒と共に食べる。唯それだけのことであるが、今では一番楽しい一時となっている。そこでは、勉強や友達のこと、今流行の服装や遊びのこと、人気歌手のこと、心に秘めたあ

こがれの人のことまで、実によく心を開いて話してくれる。そんな時、「五無主義くそくらえ、校内暴力なんのその。」と、一人気をよくしながら、生徒の顔を見つめ、学級づくりに励むこの頃である。

わかる授業を

岩津小 中根康子

勉強は、楽しくてわかつたら最高だ。わがクラスの一年の子供たちも、おもしろいものには真剣になるが、つまらなくなると、そっぽを向いてしまう。そ

中にゲームを取り入れることが多くなってきた。そこで、私もまねをしてゲームを取り入れて授業をした。

日直の号令で算数の勉強の開始である。

「今から算数の勉強を始めましょう。」

「がんばります。」

「きょうは、七のいくつといくつの勉強をします。あめをつか

つてジャンケンゲーム(ジャンケンに勝つたら、七このあめから一こずつもらっていく。)をします。」

「ワァーイ。」

ゲームと聞いただけでも喜び生き生きとした。本番のゲームもなると、体が前に乗り出て意欲的であった。このジャンケン

ゲームで体験した、七このあめがいくつといくつに分かれることをもとに七の分解のまとめをした。ここでは分解のまとめだけでなく、分けたあめをもとにもどすことを使って七の合成を

気づかせたいと思っていた。このまとめは、ゲームの回数が一

回だけであり、具体から抽象への橋渡しがうまくいかなかったためゲームのときの意欲が持続しなかった。

次に七の分解になれることを

ねらって「七こにぎって」のゲーム(両手におはじきを分けてにぎる。)をした。前のゲームよりもあがらなかった。

最後のゲームである。

「もう一つ、七こになあれのゲームをします。」

「ワァーイ。」

正直なところ中だるみもあってゲームばかりであきないか不安だったが、教具と子供のゲーム

に対する期待感でふつとんだ。一辺三センチのさいころに驚

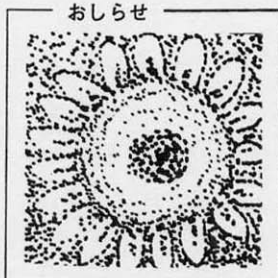
き、ゲームに夢中になってくれた。今回の授業は、子供たちもよ

くがんばって楽しかったと思う。しかし、楽しいだけでなくわかる

授業には、まだまだのようだ。具体から抽象の壁を、意欲を持

続してのりこえさせたいものだ。





おしらせ

「心の電話おかげさき」を開設

来る八月七日(金)から岡崎市にも「心の電話おかげさき」が開設される。

●開設の理由

友だちのこと、勉強のこと、からだのことなど人に打ち明けて相談することができずに悩んでいる小・中学生やその家族の方々の話を聞いて、いっしょに解決の道を考えたい、そんな願いをこめて「心の電話おかげさき」は開設される。

●対象者

今のところ、小・中学生とその保護者の方に限って、学校生活での悩みや家庭生活での問題について相談をうける。

●受信体制

○電話番号：二二一〇七八三

【寄贈刊行物・資料等】

◆追 想

鈴木弥一郎著

A 5 三二五頁

◆ともしび

神谷 卓爾著

A 5 三六四頁

◆岡崎の石仏

都築 照元著

A 5 二九〇頁

◆研究紀要

豊かな語彙力を育てる指導

生平小学校

◆指導の手引 第五集

岡崎市教科指導員の会

A 5 七二頁

を開設

○受付時間：午後六時から九時まで

ただし、日曜日、祝日、年末年始(十二月二十八日～一月四日)は休業

■神尾昌彦教諭最優秀賞

毎日新聞中部本社が、印刷開始四十五周年を記念して募集した「あすのわが県をつくる」の論文で、神尾昌彦教諭(広幡小)は、みごとに最優秀賞を受賞した。

■世界アーチエリー選手権大会に吉田正明教諭が出場

去る六月十日から四日間イタリアで開催された「第31回世界アーチエリー選手権大会」に吉田正明教諭(六北小)は日本代表選手として活躍した。なお、選手団は十二名から成り、団体で四位に入賞した。

■加藤忠彦教諭世界大会へ

外国語教育近代化世界大会が八月十八日から四日間東京で開催される。この大会に加藤忠彦教諭(美川中)は放送を利用した英語教育について提案をする。中学校からは全国でただひとりである。

■昭和56年度 岡崎市教育研究論文の募集要項

●部 門

(1)個人研究

(2)共同研究

●字 数

四〇〇字原稿用紙(B4たてよこ自由)三〇枚以内。表・

グラフ・写真は本文に含む。

●提出期限

(1)中間報告 9月4日(出)

(2)研究論文 11月20日(金)

●提出先

市教委学校教育課

●表 彰

最優秀賞・優秀賞・佳作

最優秀賞・優秀賞・佳作

—昭和56年度 夏季実技講習会—

教科・領域	期 日	場 所	人数
国 語	8・7	連 尺 小	70
書 写	8・6	岩津市民センター	50
算数・数学	8・7	矢作市民センター	70
理 科	8・7	竜 美 丘 小	50
図工・美術	8・7	岡 崎 小	80
技術・家庭	8・6	矢 作 中	40
家 庭	8・7	羽 根 小	30
英 語	8・7	大平市民センター	40
特殊教育	8・7	福祉センター「友愛の家」	50
視 聴 覚 (VTR)	8・6, 7	連 尺 小	40
図 書 館	8・6	根 石 小	50
保 健	8・6, 7	市 役 所 6F	53
視 聴 覚 (校内放送)	8・3	矢 南 小	150

世界の巨匠版画展



8月7日(金)→23日(日) 岡崎市美術館





駒が滝

所在地 岡崎市山綱町扇子山

山綱から桑谷山荘へは、急な坂道である。大きなヘヤピンカープを一つ回って二つ目を左手に折れる小路へ入る。山腹をほうように進むと、やがて小鳥の声に混じってすずしげな滝の水音が聞こえてくる。

音をたよりに谷すじに下ると、高さ五メートルほどの一条の滝がある。周囲は杉、檜の植林地だが、この谷すじだけは神域にでもなっているのだろうか。常緑の広葉樹がうっそうと茂り、昼なお暗い。

永祿五年正月、元康は織田と

●カット

六ツ美南部小

阿部 泰子

同盟を結んで初の合戦で西軍の鶴殿氏を攻めた。この谷を登りつめた元康が、滝口の岩場に駒を止め、眼下の山中城を見下ろした時、馬のひずめのとが岩肌についたというので駒が滝という。また、あし毛の駒に乗った神様が天から降りて来て、この滝つぼで水浴したからだともいわれる。

かつては涼を求める見物客でけっこうにぎわい、夏には売店も出たというが、今は滝の存在すら知る人も少なくなってしまう。

この本を

- | | |
|-------------|--------|
| ○カナダの素顔 | 新保 満 |
| 岩波書店 | 380円 |
| ○大村はまの国語教室 | 大村 はま |
| 小学館 | 880円 |
| ○石川節子 | 澤地 久枝 |
| 講談社 | 980円 |
| ○ある歴史の娘 | 犬養 道子 |
| 中央公論社 | 1,200円 |
| ○ムツゴローの人間教育 | 畑 正憲 |
| 広済堂 | 880円 |
| ○自分を生かす | 渡部 昇一 |
| 青春出版社 | 980円 |
| ○ことば教育 | 村田 栄一 |
| 筑摩書房 | 1,600円 |
| ○レトリック感覚 | 佐藤 信夫 |
| 講談社 | 980円 |
| ○論語知らずの論語読み | 阿川 弘之 |
| 講談社文庫 | 360円 |
| ○ふるさとの自然 | 岡崎の自然 |
| | 調査委員会編 |
| | 800円 |
| | 研文社 |

「お米二合持つてくる。」「二合持つてわかるの。」「じゃ、何と言えればいいの。」「ともかく計量びつとか炊飯器のますで計つて来るさ。」「その一ぱいが一合?」「一八〇ccが一合」メートル法が施行されて幾年月。永六輔ではないけれど、一合はピンとくる。今は一合ますはないしウヤムヤ談義におわつた感じ……。

シオア

シーンとして音もない教室。静けさを破って窓を開けると、新鮮な空気が部屋へ流れる。ペランダの朝顔に朝日が当たる頃、外でも廊下でも賑やかな声ははずむ。「先生おはようございませう。子どもが家に帰り、夕日が沈み、教室がまたシーンとなるまでの、試合開始のゴングである。」

すがすがしい高原の空気が。市制記念日を利用して、駒立のぶどう狩りの取材にでかける。

あじさいの花もいつしか終わり、一年生が育てたあさがおが見事に花をつけて眼を楽しませてくれる。
真赤なハイビスカス、真白なむくげの花が真夏を感じさせる。
朝顔のさまざまな色を尽すかな 子規
槿花 一日の栄華をきわめる……………
暑中 御見舞い申し上げます。

ぶどう狩りはもちろん、乗馬クラブにゴルフ場、射撃場と、駒立のことはある程度知っているつもりだった。しかし、こんなに広いぶどう園があったとは。学区のことも、意外に知らないなあ。